

展望

繊維産業の展望と課題 技術と感性で世界に飛躍するために —先端素材からファッションまで—

経済の高付加価値化への貢献

①感性価値創造の担い手

【カイハラのデニム】



写真提供: 株式会社エドウィン

【プリーツプリーズ イッセイミヤケ
(PLEATS PLEASE ISSEY MIYAKE)】

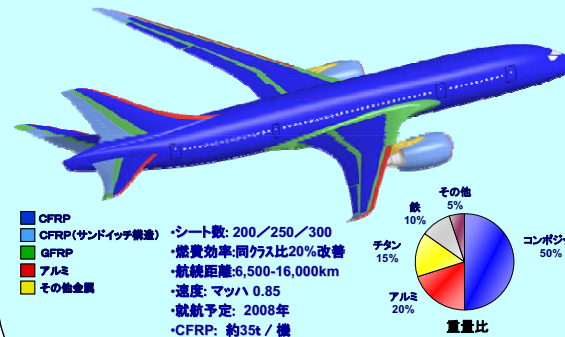


写真提供: ISSEY MIYAKE INC.

②材料革命を担うハイテク産業、高次加工産業

【航空機に使用される炭素繊維】

B787構造材料の使用比率



【アラミド繊維を用いた防弾チョッキ】



写真提供: 帝人株式会社

炭素繊維



PP(プリプレグ)



写真提供: 東レ株式会社

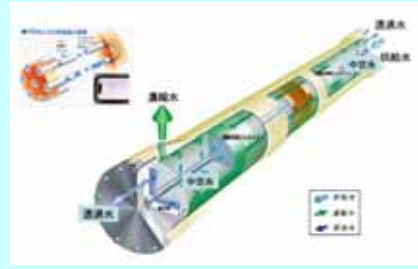
社会的価値への貢献

③環境調和型ライフスタイル・経済活動の担い手

【中空系型逆浸透膜を用いた海水淡水化施設】



写真提供: 東洋紡績株式会社



①地域経済の担い手

【山口まちじゅうデニム】



写真提供: 第21回国民文化祭山口市実行委員会ファッションフェスティバル推進委員会 街じゅうワーキンググループ

②文化交流の担い手

【外国人観光客を対象とした
裏原宿紹介ツアー】



写真提供: 原宿神宮前商店会

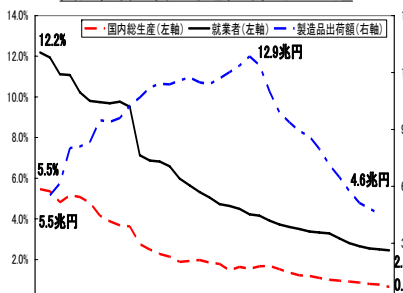
現状

繊維産業の展望と課題 技術と感性で世界に飛躍するために — 先端素材からファッションまで —

直面する課題 ～競争の激化と産業の疲弊

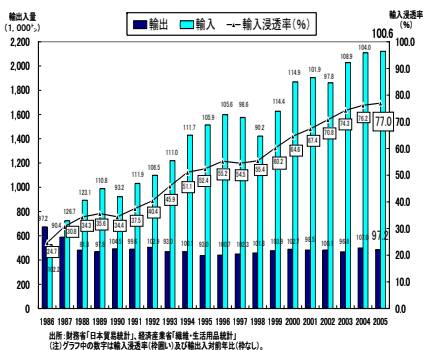
- ① 国際競争の激化 ② 国内人口減による市場縮小 ③ 粗原料の逼迫
- ④ 産地の疲弊 ⑤ 人材や開発投資の繊維製造業離れ

製造品出荷額は1990年以降激減
国内経済に占める地位も低下の一途



(注) 国民経済計算確報(内閣府) 1980、1996年に基準改定が存在。工業統計(経済産業省)

輸入増加により輸入浸透率は上昇



出所: 財務省「日本貿易統計」、経済産業省「繊維・生活用品統計」
(注) グラフ中の数字は輸入量(億円)及び輸入対国内総生産(%)

活用すべき強み ～技術と感性

- ① 日本の消費者の感性 ② 産地の匠の技
- ③ 新素材開発力と国内顧客企業の国際競争力
- ④ 世界水準のクリエイション人材 ⑤ 作り手・売り手の感性

日本が誇る匠の技は世界最高水準



【伝統的な西陣織の技法である「唐織」により製織された正絹袋帯】

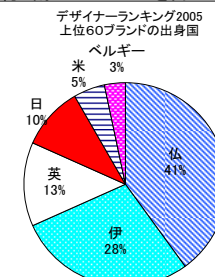


【スーパーオーガンザ】

フェニール(ストッキングは20デニール以上)の超極細糸を使用した一般衣料用としては世界一透けて軽い(10g/m²)“天女の羽衣”のような素材。柔らかさ、光沢、透明感、どれをとっても従来の生地にはない特性を持っている。

(写真: Shinji Hattori (Studio VIG, Tokyo))

日本のデザイナーは世界の上位ブランドの約1割のプレゼンスを占めている

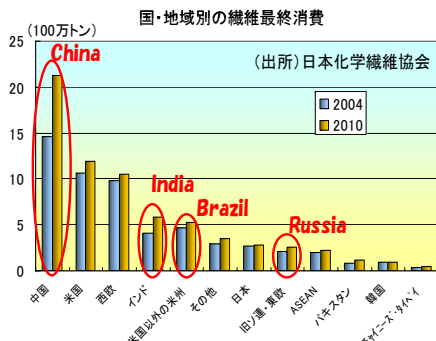


※デザイナーランキング: 毎年、仏の業界誌「journal de textile」において世界的に著名なファッションデザイナー70名(内、日本人1人)による投票によって選出。

拡大する機会 ～途上国の成長と地球環境問題

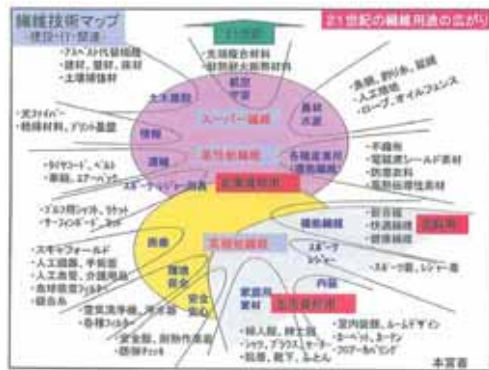
- ① アジアを中心とする世界市場の拡大 ② 国内産地の再評価
- ③ 合成繊維の多様な可能性 ④ 情報技術の高度化・普及

BRICsの繊維消費量は増加する見込み



(出所) 日本化学繊維協会

繊維の用途の広がり

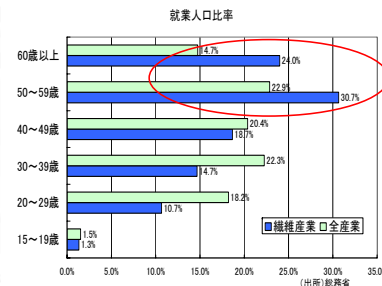


出典: 梶原莞爾、本宮達也「ニューフロンティア繊維の世界」日刊工業新聞社 (2000年)

克服すべき弱点 ～構造転換の遅れ

- ① 斜陽産業イメージ ② 国際感覚の欠如
- ③ 大量生産システムからの転換の遅れ
- ④ 製造企業とアパレル企業の直接交流の不足 ⑤ 国内の高コスト構造
- ⑥ 工程別、素材別、地域別に細分化された業界団体

斜陽産業イメージで若手が不足し高齢化



欧米と比べて複雑な流通構造

典型的流通構造の比較		
日本	アメリカ	ヨーロッパ
原糸・紡績 糸商	紡績織布	紡績織布
擦糸 糸染・整経	コンバーター	コンバーター
織布 織商	アパレル (大手アパレルは直売が多い)	アパレル
アパレル アパレル卸	小売	見本市
小売	小売	小売

(出典) 伊丹敬之「日本の繊維産業 なぜ、これほど弱くなってしまったのか」NTT出版 (2001年)

対応

繊維産業の展望と課題

技術と感性で世界に飛躍するために — 先端素材からファッションまで —

構造改革の推進

- ①産地中小企業の活性化
 - ・企業間連携、統合による多段階構造の克服
 - ・「よろず相談窓口」となる総合支援拠点整備（中小企業基盤整備機構との連携）
 - ・中小企業地域資源活用プログラム
- ②生産性向上
 - ・取引慣行改善（「中小企業底上げ戦略」との連携）
 - ・IT化の推進（情報共有基盤整備の推進）
- ③その他横断的施策の活用

3つの柱

技術力の強化

- ①研究開発投資の重点化
 - ・「技術戦略マップ2007」への「ファイバー」分野の新設
- ②異業種との開発協力の促進
 - ・「産業クラスター計画」への参画
- ③技術流出対策
 - ・外為法等の見直し

情報発信力・ブランド力の強化

- ①ホームに拠点を持つ
 - ・「東京発 日本ファッション・ウィーク」
 - ・「TOKYO FIBER」
- ②アウェイで競う
 - ・海外展示会の充実（JETROとの連携）
- ③新しいライフスタイル需要を創る
 - ・環境調和型ライフスタイルの促進
 - ・和装需要の振興



「東京発 日本ファッション・ウィーク」
写真提供：ファッション戦略会議



「TOKYO FIBER」

国際展開の推進

- ①WTO/EPA交渉等を通じた海外市場の障壁削減
- ②国際展開のリスク軽減支援（JETRO、日本貿易保険との連携）
- ③知的財産保護の強化
 - ・模倣品対策

2つの基盤整備

人材の確保・育成

- ①必要な人材の確保・育成
 - ・技術者・技能者
 - ・ファッション人材
 - ・国際事業展開に必要な人材
- ②人が育つ環境の整備
 - ・資料館の整備
 - ・子供に対する産業・産地教育の実施
 - ・産業の魅力の発信